

3. 将来都市構造

3-1 将来都市構造

標茶町の市街地の特性は、市街地の発祥の源である釧路川を軸に、東西にコンパクトな市街地が形成されていることから、今後も市街地形成及び生活環境にとって重要な役割を果たし、共に歩む釧路川を「市街地のシンボル軸」として位置づけ、「市街地形成とすべての生活の場」としての東西市街地を2つの拠点とし、「市街地形成のための骨格」として9路線による環状型骨格路線と鉄道を位置づけます。以上によって、よりコンパクトな都市機能の充実を図ります。

■標茶町の都市構造

拠点・軸・骨格	要素	位置づけ
■コンパクトな市街地形成とすべての生活の場としての2つの拠点	①川西市街地	釧路川を挟み西側の市街地で、居住拠点であり公共施設が多く行政サービスの拠点機能を持っている。また、国道391号沿道の南北端には軽工業の拠点としても機能しており、国道274号との交差部には近隣商業機能も有している。このことから各機能の充実を図る。
	②川東市街地	釧路川を挟み東側の市街地で、区画整理事業などによる居住拠点であり、釧路内陸工業団地が整備されていることから工業の拠点機能を持っている。また、JR標茶駅前からは中心商業機能も有し、商業拠点となっている。このことから各機能の充実を図る。
■コンパクトな市街地のシンボル軸	①釧路川	東西の市街地の中央に位置する釧路川は、町の名前の語源になっており、豊富な水と広大な河川敷地は、河川緑地としての整備も進み、水辺空間を活用した自然とのふれあい、スポーツ・レクリエーション等の交流の場及びやすらぎの場として、堤防空間の環境整備による景観環境の充実など、市街地の形成や生活環境にとって重要な役割を果たしていることから、市街地のシンボルとして充実を図る。
■コンパクトな市街地形成のための骨格(9路線による環状型骨格路線整備と鉄道)	①国道391号(開運通)	広域幹線道路として釧路・網走方面を結ぶ国道391号を西側市街地を縦貫する骨格路線とする。
	②国道274号(駅前中央通)	広域幹線道路として十勝方面を結ぶ国道274号を西側市街地の骨格路線とする。
	③主要道道中標津標茶線(虹別通)	広域幹線道路として中標津方面を結ぶ主要道道中標津標茶線を東側市街地を縦貫する骨格路線とする。
	④主要道道厚岸標茶線(富士通)	広域幹線道路として厚岸方面を結ぶ主要道道厚岸標茶線を東側市街地を縦貫する骨格路線とする。
	⑤都市計画道路 旭常盤通	西側市街地の国道391号と東側市街地の主要道道中標津標茶線を結ぶ旭常盤通を東西市街地の生活・文化・産業などを連絡する骨格路線とする。
	⑥都市計画道路 駅前中央通	西側市街地の国道391号・274号と東側市街地の主要道道中標津標茶線を結ぶ駅前中央通を東西市街地の生活・文化・産業などを連絡する骨格路線とする。
	⑦都市計画道路 新栄南標茶通	西側市街地の国道391号と東側市街地の主要道道厚岸標茶線を結ぶ新栄南標茶通を東西市街地の生活・文化・産業などを連絡する骨格路線として整備を行う。
	⑧都市計画道路 公園通	西側市街地の外郭を連絡する公園通は主要施設を結ぶ骨格路線とする。
	⑨都市計画道路 平和通	東側市街地の外郭を連絡する平和通は工業団地を結ぶ骨格路線とする。
	⑩都市計画道路 桜通	東側市街地と郊外を連絡する桜通は釧路方面(五十石)を結ぶ骨格路線とする。
	⑪JR釧網線	釧路等と網走方面を結ぶJR釧網線は、観光などの産業の広域交流の骨格として位置づける。